



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 オートバックスセブン  
 コード番号 9832 URL http://www.autobacs.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 小林 喜夫巳  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理・財務・法務担 (氏名) 平賀 則孝 TEL 03-6219-8787  
 当  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月6日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	164,609	2.4	7,390	20.0	8,450	18.8	5,296	13.9
29年3月期第3四半期	160,687	△2.5	6,159	△18.0	7,111	△15.8	4,650	△13.2

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 6,431百万円 (37.4%) 29年3月期第3四半期 4,681百万円 (△0.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	64.19	—
29年3月期第3四半期	55.35	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	207,150	129,064	62.0	1,557.53
29年3月期	176,708	127,392	71.9	1,540.12

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 128,512百万円 29年3月期 127,078百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
30年3月期	—	30.00	—		
30年3月期(予想)				30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	205,000	0.5	7,000	20.1	7,500	5.3	5,200	72.4	63.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	84,050,105株	29年3月期	84,050,105株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	1,539,825株	29年3月期	1,538,020株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	82,511,334株	29年3月期3Q	84,011,053株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
経営成績に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	6
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、経営資源の配分および業績評価について、平成30年3月期を初年度とする「2017中期経営計画」に合わせた管理区分の変更に伴い、第1四半期連結会計期間より報告セグメントを変更しております。

### 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内の自動車関連業界の動向といたしましては、新車販売台数や中古車登録台数が回復傾向にあり、これに伴うカー用品関連の需要は前年の同時期と比較して改善傾向でありました。

このような状況のもと、当社グループは平成29年5月に発表した「2017中期経営計画」に沿って、「国内オートバックス事業の再生」と「将来に向けた成長ドライバーの育成」を軸に、収益の拡大と資産効率の向上のための施策に注力しております。

当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比2.4%増加の1,646億9百万円、売上総利益は前年同期比1.6%増加の522億41百万円、販売費及び一般管理費は前年同期比0.9%減少の448億50百万円、営業利益は前年同期比20.0%増加の73億90百万円となりました。経常利益は前年同期比18.8%増加の84億50百万円となりました。また、特別利益として投資有価証券売却益2億91百万円、特別損失として車・ディーラー・BtoB事業におけるカー用品の卸売ビジネスに関わる固定資産などの減損損失2億20百万円、国内店舗子会社の事業譲渡に伴う関係会社整理損5億61百万円を計上いたしました。この結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比13.9%増加の52億96百万円となりました。

セグメントごとの業績は、以下のとおりであります。

#### [国内オートバックス事業]

当第3四半期連結累計期間における日本国内のオートバックスチェーン（フランチャイズチェーン加盟法人店舗を含む）の全業態の売上高は、前年同期比で既存店1.2%の増加、全店1.1%の増加となりました。

国内オートバックスチェーンでは、「2017中期経営計画」において、「プロフェッショナルでフレンドリーな存在」になるというスローガンのもと、商品・店舗の開発および人材の育成をすることにより自動車に関わる新しいマーケットを創造することに注力してまいりました。

当第3四半期連結累計期間においては、国内タイヤメーカーによるタイヤの値上げや降雪に伴うスタッドレスタイヤの需要の拡大に対応し、品揃えの強化や店舗における接客体制の強化に努めたことにより、タイヤの販売が好調に推移いたしました。また、平成29年10月以降にドライブレコーダーに対する関心が高まったことにより売上が増加いたしました。さらに車内インテリアや消耗品を中心にプライベートブランド商品である「A.Q.（オートバックスクオリティ.）」とクルマに関わるライフスタイルを提案するブランドである「JKM（ジェイケーエム）」「GORDON MILLER（ゴードンミラー）」において商品ラインアップを拡大させました。また、ペダル付きの電動バイクやドローンなどクルマとともに楽しむ商品の販売も開始いたしました。これらの取り組みに加えて、当社からの店舗の仕入原価率を低下させ、フランチャイズチェーン加盟法人の販売力を強化いたしました。これらの結果、当社子会社を含むフランチャイズ加盟法人の収益力は改善傾向にあります。

車検・整備は、「プロフェッショナルでフレンドリーな存在」を象徴する存在として、実際の店舗のピットで働く整備士にスポットライトを当て、技術力や自動車整備に対する情熱を伝える取り組み「AUTOBACS GUYS（オートバックスガイズ）」をスタートし、テレビCMや店頭における車検の広告宣伝活動を展開いたしました。この結果、車検実施台数は前年同期比2.1%増加の約45万7,800台となりました。

車買取・販売は、新しいイメージキャラクターによるテレビCMを通じて当社の車買取の差別化ポイントを訴求いたしました。しかし、買取査定に関わる人員の減少などに伴い、オートオークションなど中古車販売業者向け販売が減少いたしました。この結果、オートバックスカーズ加盟店における販売台数は前年同期比8.7%減少の約17,700台となりました。

出店といたしましては、「オートバックス府中」を、主にクルマにあまり詳しくないお客様でも心地よくお買い物ができ、最適なサービスを受けていただける新しい業態に転換し「オートバックスガレージ府中」として出店いたしました。さらに、ショッピングモールのお客様に対して洗車や車検の案内を行う「オートバックスMini」を4店舗出店いたしました。

一方、日本初のクルマを通じたライフスタイルショップとして「JACK & MARIE（ジャックアンドマリー）」ブランドを立ち上げ、国内最大級のファッション系通販サイトである「ZOZOTOWN」にて当社オリジナル商品を中心に販売を開始すると共に、イベントなどで認知向上の活動を行った結果、売上が順調に増加いたしました。今後は「JACK & MARIE」の派生ブランドとして「JKM」「GORDON MILLER」の商品のラインナップをさらに増やし、オートバックスグループ店舗で販売を拡大してまいります。

これらの結果に加え、平成29年3月期および第1四半期において、オートバックスチェーンの店舗を運営する当社連結対象子会社をフランチャイズチェーン加盟法人に譲渡したことなどにより、当第3四半期連結累計期間の国内オー

トボックス事業の売上高は1,401億87百万円（前年同期比2.1%減）となりました。しかし、タイヤの売上の増加に伴う売上総利益率の改善などにより、セグメント利益は139億5百万円（前年同期比11.8%増）となりました。

〔海外事業〕

海外事業における売上高は69億6百万円（前年同期比14.8%増）、セグメント損失は4億52百万円（前年同期は4億53百万円のセグメント損失）となりました。小売・サービスビジネスとして、フランスにおいては、景況感が回復傾向にあることに加え、安全点検を切り口としたタイヤやピットサービス売上が増加したことなどにより、前年同期比で利益が改善いたしました。シンガポールにおいては、平成29年4月にガソリンスタンドのインショップ型店舗の出店などにより売上が改善したものの、事業拡大のための人員の増強などにより経費が増加し、営業利益は減少いたしました。タイにおいては、新規出店の小型店と既存の大型店の連携が進み売上が増加し、損失が縮小傾向にあります。また、現地の大手ガソリンスタンドチェーンのPTGグループと同チェーン内へのカー用品・サービス店の出店を目指し資本・業務提携を行い、出店の準備を進めました。

新規ビジネスとして、シンガポールにおけるカーシェアリングの車両に対するサービス事業、インドネシアやシンガポールにおける小売店向けの卸売を開始いたしました。さらに中国においては、カー用品の販売・サービスのプラットフォームの運営と車載用芳香剤の製造・販売を行う企業に出資をするなど、従来の小売ビジネスに加え、当社の強みである商品調達力、サービスのノウハウ、売場の提案力などを生かした事業を拡大する戦略を強化しております。

〔車・ディーラー・BtoB事業〕

車・ディーラー・BtoB事業における売上高は233億1百万円（前年同期比35.5%増）、セグメント損失は10億42百万円（前年同期は3億64百万円のセグメント損失）となりました。車買取専門店が直営店舗の増加に伴い、中古車の買取台数が増加したものの、新規出店の過程で計画に対して査定件数の不足や経費の先行的な発生により、損失が増加いたしました。一方、買取車両の販売先として海外への輸出を開始し、収益の改善に努めております。輸入車ディーラー事業は、株式会社モーターレン栃木の株式取得および東京都練馬区における事業譲受に伴い店舗数が増加いたしました。池袋地域の既存店舗と合わせて業績が順調に推移しており、売上および利益が増加いたしました。BtoB事業は、モータースポーツ系商品を扱うEコマースの売上やプライベートブランド商品の売上が増加したものの、ホームセンター向けのカー用品販売におけるオイルの仕入原価の上昇、物流経費の増加などにより利益が前年同期比で減少いたしました。

当社グループにおける出退店は、以下のとおりであります。

国内における出退店は、新店7店舗、退店3店舗であり、平成29年3月末の601店舗から605店舗に増加いたしました。また、12月末のカーズ加盟店舗は前年度末の468店舗から471店舗に増加いたしました。これらとは別に輸入車ディーラーは11拠点で営業しております。

海外における出退店は、新店5店舗、退店3店舗であり、合計40店舗と平成29年3月末の38店舗から2店舗増加いたしました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	31,520	35,213
受取手形及び売掛金	20,032	35,990
商品	15,317	18,669
未収入金	20,863	27,740
未収還付法人税等	503	30
その他	13,992	13,644
貸倒引当金	△70	△70
流動資産合計	102,159	131,219
固定資産		
有形固定資産		
土地	22,188	22,879
その他(純額)	19,988	19,512
有形固定資産合計	42,176	42,391
無形固定資産		
のれん	853	836
その他	5,743	4,957
無形固定資産合計	6,597	5,793
投資その他の資産		
差入保証金	15,357	14,374
その他	10,487	13,426
貸倒引当金	△70	△54
投資その他の資産合計	25,774	27,746
固定資産合計	74,548	75,931
資産合計	176,708	207,150
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,838	36,382
短期借入金	5,969	4,776
未払金	11,489	15,585
未払法人税等	473	2,241
ポイント引当金	477	345
その他	6,013	5,696
流動負債合計	37,263	65,028
固定負債		
長期借入金	679	2,201
引当金	98	86
退職給付に係る負債	129	74
資産除去債務	2,285	2,271
その他	8,858	8,423
固定負債合計	12,052	13,057
負債合計	49,315	78,086

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,998	33,998
資本剰余金	34,299	34,298
利益剰余金	59,188	59,532
自己株式	△2,769	△2,772
株主資本合計	124,717	125,056
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,025	2,833
為替換算調整勘定	335	621
その他の包括利益累計額合計	2,360	3,455
非支配株主持分	314	552
純資産合計	127,392	129,064
負債純資産合計	176,708	207,150

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	160,687	164,609
売上原価	109,263	112,367
売上総利益	51,424	52,241
販売費及び一般管理費	45,264	44,850
営業利益	6,159	7,390
営業外収益		
受取利息	48	58
受取配当金	65	86
持分法による投資利益	4	336
情報機器賃貸料	756	535
その他	1,264	1,342
営業外収益合計	2,139	2,360
営業外費用		
支払利息	24	28
情報機器賃貸費用	694	638
固定資産除却損	50	236
その他	417	396
営業外費用合計	1,187	1,300
経常利益	7,111	8,450
特別利益		
投資有価証券売却益	—	291
特別利益合計	—	291
特別損失		
減損損失	—	220
関係会社整理損	—	561
特別損失合計	—	782
税金等調整前四半期純利益	7,111	7,959
法人税、住民税及び事業税	2,266	2,791
法人税等調整額	203	△165
法人税等合計	2,470	2,625
四半期純利益	4,641	5,333
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,650	5,296
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△9	36
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	164	796
為替換算調整勘定	△128	285
持分法適用会社に対する持分相当額	3	16
その他の包括利益合計	40	1,098
四半期包括利益	4,681	6,431
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,694	6,391
非支配株主に係る四半期包括利益	△13	40



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整 (注2)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注3)
	国内オー トバック ス事業	海外事業	車・ディ ーラー・ BtoB事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	142,643	5,859	11,456	159,960	727	160,687	-	160,687
セグメント間の内部 売上高又は振替高	607	154	5,740	6,501	585	7,086	△7,086	-
計	143,251	6,013	17,196	166,461	1,312	167,774	△7,086	160,687
セグメント利益又は 損失(△)	12,434	△453	△364	11,616	39	11,655	△5,495	6,159

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社のリース事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△5,495百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整 (注2)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注3)
	国内オー トバック ス事業	海外事業	車・ディ ーラー・ BtoB事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	139,620	6,644	17,605	163,870	738	164,609	-	164,609
セグメント間の内部 売上高又は振替高	567	261	5,695	6,524	517	7,041	△7,041	-
計	140,187	6,906	23,301	170,395	1,255	171,651	△7,041	164,609
セグメント利益又は 損失(△)	13,905	△452	△1,042	12,410	59	12,470	△5,079	7,390

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社のリース事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△5,079百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、経営資源の配分および業績評価について、平成30年3月期を初年度とする「2017中期経営計画」に合わせた管理区分の変更に伴い、報告セグメントを変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内オートバックス事業」において、退店を意思決定した2店舗に係る店舗資産の帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。当該事業による当第3四半期連結累計期間の減損損失の計上額は54百万円であります。

「車・ディーラー・BtoB事業」において、営業活動から生じる損益が継続してマイナスである資産グループについて、帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。当該事業による当第3四半期連結累計期間の減損損失の計上額は166百万円であります。